



NO.421

R4年9月1日

発行

〒869-1217

熊本県菊池郡

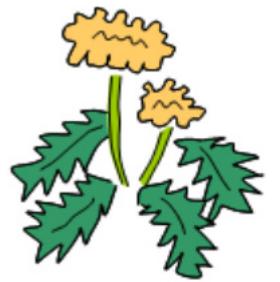
大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



コロナ感染に関する報告

理事長 松田 健



8月初旬よりコロナ感染症のクラスターが三気の里入所部において発生しました。あっという間に拡がりました。およそ3週間後の8月20日に収束しました。

この度は三気の里の入所部門において、新型コロナウイルス感染症が蔓延する状況に至ってしまった事を、管理者として深くお詫び致します。大変申し訳ございません。

約2年9か月前、新型コロナウイルス感染症の確認時点から今日まで、スタッフに注意喚起し皆さんがそれを忠実に守って頂く中で、これまで施設内へのウイルスの侵入・感染を防ぐことが出来ていましたが、今回、第7波とされるBA.4またはBA.5と言われる変異株の感染力の強さにお

いて、侵入を防ぎきる事が出来ませんでした。

5日間で多くの方が感染しました。感染力の凄さを物語っています。39度以上の熱が出た方は8名でした。解熱剤の服用により2、3日で熱は引きました。高齢の方や持病を持っている方、てんかん発作の頻度の高い方などが比較的軽度の症状でありました。しかし、後遺症ではないかと思われる症状が出た方がいます。下痢や味覚障害などです。それぞれ3日程度で回復されました。

ほとんどレッドゾーンになってしまい、罹患するとわかっていて現場に入っていたスタッフのお陰で利用者の方が重症化することなく収束することができました。

休日や時間外でも勤務してくれました。若いスタッフが走りまわっていました。その姿がた

くましく見えました。家族での事情がそれぞれありますが施設を優先してくれた方がいます。優先しないとダメだといっているではありません。心から感謝を述べたいのです。陽陽介護

(陽性のスタッフが陽性の利用者の介護・支援をする)には賛否両論あるかもしれませんがこのままいけばスタッフのほとんどが罹患し勤務がまわらない状況になるかもしれないので感染後数日で戻ってきてくれた時は涙が出るほど嬉しかったです。愚痴を言わず当たり前のこととして勤務してくれました。防護服を着てサウナに入ったような状態で勤務するスタッフのその姿を私は一生忘れません。ちなみに、青のガウンを着用していたのですが、在庫が底をついたので、ピンクのガウンをみんな着用しましたがその2日後に

解除となったので、利用者さんにとってピンクは幸せの色になったかもしれません。

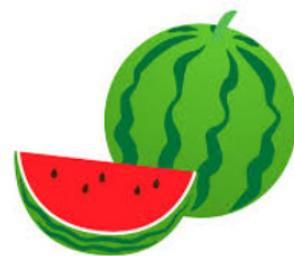
新型コロナウイルス感染症発生時における業務計画(コロナBCP)に則り対応しました。本計画は、新型コロナウイルス感染症の感染者(感染疑いを含む)が施設内で発生した場合においても、サービスマスク提供を継続するために当施設の実施すべき事項を定めるとともに、平時から円滑に実行できるよう準備すべき事項を定めるとありますが、実際は想定していないことが多く起こり、対応にも反省すべき点が多くありました。今回罹患しなかった三気の里の他事業所においてもいすれ起こるかもしれない。その時に今回の教訓を必ず生かすようにしていきたいと思えます。

【お詫び】

機関誌「たんぼぼ」8月号を三気の里入所施設内のコロナ流行によりどうしても発行できませんでしたが、今回8、9月の合併号とさせていただきます。ご迷惑をおかけして申し訳ありません。お詫び申し上げます。



8月



「久しぶりの外出レク」

久しぶりに外に出たのレクリエーションがありました。コロナ感染者が減らない中、当日は県内リスクレベルが下がっていることもあり、おやつはコンビニに寄ってそれぞれ買い物をして頂きました。お金を扱うのが久しぶりの為、皆さんスタッフに財布を渡し、「支払いをして欲しい」と言っている様子でした。お金を揃えて渡し、店員さんに手渡してお釣りを受け取ることをしてもらいましたが、お釣りを受け取ることなくそのまま商品を受け取り外に出ようとする方が多く、コロナ前は出来ていたことも忘れてしまっている方も多く見られ、出来ることは継続して出来る経験をしていかなければならないと感じたレクリエーションでした。他にも創作活動や運動公園を散歩してワンピースのサンジ像の前で集合写真を撮ったりと、コロナ禍では出来なかったことを楽しむ機会となり、皆さんいつもより笑顔いっぱい過ごせた時間となりました。

支援員 宮岡 春菜



「選択肢」

6/29(水)に2班のレクレーション外出が実施されました。ここ最近のレクレーションといえば、園内活動がメインとなり、外出と言ってもドライブのみにせざるを得ない状況でした。今回より制限の緩和に伴い、ドライブの途中に【コンビニでお買い物】という項目を追加することができました。手指消毒とマスクの着用を徹底し、飲料コーナーやお菓子コーナーでとてもいい表情をされながらレジに並ぶ方や、どの商品にしようかとワクワクする気持ちからか、何度もお菓子と飲料コーナーを行き来する方もいました。限られた時間の中で、沢山の品数の中からすぐに選ぶ方が難しいのかもしれませんが。

私自身、コンビニでの買物が久々かといえはそうではありません。生活の為にも普段より利用します。商品を何度もみて自分の買いたい物を購入します。こういう時こそ考えます。利用者の方々、1人ひとりにあわせた自己決定支援や意思決定支援とは何か、どのような配慮や支援方法がよりその人らしいのかと。何気ない表情ひとつから、改めて大切なものを気づかせていただいた今回のレクレーションでした。

支援員 麻生聡一郎



「眺めて」

熊本県でも1500人を超える方がコロナウイルスに感染してしまい、帰宅中止の判断となっ
てしまいました。御家族様も、利用者さんも肩を落とされた事かと存じます。

さて、コロナウイルスが流行し2年から3年が経過しようとしています。利用者のAさんは起床
時、居室の窓に「しがみつくように」外を眺めておられます。Bさんは昼食後の洗濯物畳みの際に
窓の外を「ジーッ」と眺めておられます。Cさんは夜間、2階の居室から窓の外を「切ない瞳」で
眺めておられます。窓越しに映った皆さんの表情は、どこか寂しかったり、少しだけ笑っておら
れたり、帰宅を連想されているのではないかと感じる事が多くあります。そんな皆さんの後ろ
姿を見ると、自分の胸もギュッと締め付けられます。「早く帰れるようになるといいですね」と
声を掛けながら寄り添い、眠られるまで付き添わせてもらう事もあります。

コロナ禍で制限付きの生活ばかりですが、いつかきっと安心した笑顔で過ごせる毎日
が来る！と信じています。

支援員 早瀬 寛

「今日は何ば歌うかな？」

金曜日の午後はクラブ活動の時間となっています。各班で散歩に行き季節を感じたり、カラ
オケを行い日頃溜まっているものを吐き出す等それぞれ異なります。4班では、音楽が主になっ
ており、ハンドベル演奏やリズム体操等行っていますが、中でも“カラオケ”は大人気です。どん
な曲でも高得点のKさん、一体何曲知っておられるのか。童謡から懐メロまでこなす歌姫Tさん、
大好きアイドルの歌を熱唱されるNさん、新しく仲間入りしたSさんも美声を響かせてくださ
います。出番が来るまでリズムに合わせ手拍子をとったり、歌い終わるとお互いを褒めて褒めら
れたり笑顔が広がります。この笑顔溢れる空間に居るだけでも幸せな気持ちになり、自然と
笑みがこぼれてきます。私もこの時間が大好きです。いつか皆様にお披露目出来る機会が
ありましたら、是非!!手拍子をよろしくお願ひします。

支援員 芹川 久美



「ドレミパイプ」

5班では班でのクラブ活動の一環としてアート活動に取り組んでいますが、最近新しい試み
をはじめました。タイトルにある「ドレミパイプ」です。その名の通りパイプを振ると音が鳴る
楽器で、一人1本または2本を手に持ち、スタッフの指揮に合わせて振る練習を行っています。

スタッフも慣れない為、簡単な童謡からはじめています。指揮者に注目する、指揮に合わせ
てパイプを振る、止める、など療育的な要素も多々必要となってきます。指揮に合わせて演
奏することも大事ですが、音楽の流れを理解することや、自分の出番を理解する力が身に
つくと思っております。一番は楽しむ事ですが、楽しく療育ができるよいツールだと感じ
ました。コロナが落ち着き、イベントも再開したら皆様の前で披露できればと思っています。

主任 佐藤 和也

夏祭りの



夏祭り

「夏祭りの担当となって」

支援員 菅原 恵太

自分自身、大きな行事を担当することが初めてで、分からないことだらけでした。夏祭り当日まで2週間、1週間と期限が迫るにつれ、準備は出来ているのか、皆が楽しめるのだろうか、不安しかありませんでした。そして当日を迎え朝から雨が降っていました。係の皆の協力があり順調に進めることができました。本番では、食事は勿論ですが、輪投げ、宝探し、ペタンク、盆踊りなどの催しも皆さん楽しまれています。利用者さんとスタッフと一緒に楽しんでいる様子や終了後「楽しかった」との声を掛けて頂き、無事に終わって良かったと安心しました。夏祭りを成功で終えることができたのは、先輩スタッフや同僚のサポートのおかげです。また、計画の段階から係の皆が楽しい雰囲気を作り上げてくれたので、自分自身も乗り越えることができたと感じています。今回で得た経験を今後活かして行きたいと思っています。

夏の思い出

7/28

三気マーケット



8/27

お疲れ様会

ハンバーグ弁当



フルーチェ作り



課長便り

「チームワーク」

業務課長 本田 誠

三気の里では、重大な事故を未然に防ぐ一環として、さまざまな場面でのヒヤリハットが日々上がってきます。最近の傾向として、移動時の転倒や躓き、食事中の咽など加齢が起因する内容が多く見られます。ヒヤリハットには、出来事、原因、改善策を記入し、全スタッフに周知するのですが、改善策の中に「マンツーマンでの対応が必要」と記されるものが増えてきています。全利用者に対して、マンツーマンでの対応が理想ですが、日常はスタッフひとりりで複数の利用者をケアしている現状があります。しかし、事故を防止するためには、マンツーマンでのケアが求められる時が多くあります。矛盾する内容ですが、両方を可能にする為には、スタッフ間の連携が必要不可欠です。互いの状況を理解し、互いに感謝し合うことで、より良い連携が生まれると感じています。目配り気配りしながら、チームワークで利用者に丁寧なケアを提供して行きます。

研修課

「研修課より」

主任 森田 康之

今年度の研修課は「コミュニケーション」を目標に掲げ、三気の基本方針のひとつである「支援者の資質向上」に向けて取り組んでいます。「コミュニケーション」の重要な要素に「伝達」というワードがあります。ただ受講するばかりの研修ではなく、受講した後にその成果を現場に伝達（支援や姿勢に反映させる）が何より大事なことであり、位置づけて、研修の運営を行ってまいります。また今年度は内部研修に重点を置き、各部署が主体となって研修を実施しています。月に約1.5回の頻度で研修を企画しています。①スタッフ間の共通認識を高める（人権や加齢における身体変化など）②支援の質をベースアップする（三気の里の考え方、療育技法）ことが大きなねらいです。情報や知識、考え方が「ガラパゴス化」しないように留意しながらスタッフ相互に高め合える環境作りを行っています。

看護師

「口腔ケアで健康維持」

看護師 今村 万喜

全ての国民に歯科検診を義務付ける制度の導入が本格化しています。丈夫な歯を維持して心身機能の低下や病気の誘発を防ぎ、医療費の抑制に繋げるという発想です。食べこぼす、噛めない食べ物が増える、上手く飲み込めない、咽やすいなどが口腔機能の衰えのサインと言われています。三気の里でも、高齢化に伴い嚥下が上手くいかず咽ることが多くなって、嚥下機能検査を受ける利用者の方が出てきています。食事の形態も刻み食やとろみを付けた食事、ミキサー食等、様々な形態になってきました。幸いなことに三気の里には30年以上に亘ってボラントイアで口腔内をチェックしに来てくださる前淵さんという歯科衛生士さんがいます。1〜2か月に1度の割合で利用者の口腔内を見て頂き、虫歯や歯の動揺、冠の離脱など、職員では分かりにくい所を見つけて頂き、早期に歯科通院が来ています。歯磨きの仕方、歯ブラシの選び方などのアドバイスも頂きます。現

在はすべての利用者の方が、定期的に歯科受診が出来るように計画を立てて受診を進めています。年齢を重ねることによって、歯槽膿漏等の歯周病が進み、歯を失うことがないように、今後日々の歯磨きに力を入れて取り組み、食事を美味しく楽しく食べられるようにサポートし、健康維持に繋がりたいと思っています。



療育雑記

責任感く殻を破るく

支援課長 岩田 幸児

三気の里の夜間の支援体制は夜勤3名の支援員と夜間専門支援員の4名体制で支援しています。夜勤の支援員は、男性女性それぞれの利用者の方を軸となり支援出来る支援員各1名と、比較的キャリアの浅い支援員の組み合わせで支援します。(軸となり支援するということは、いざ有事の時に適切に判断し対応が出来る支援員となります。)

夜間の支援業務は、利用者の方の快適な睡眠の環境を確保すると同時に、安全を守ることが最も重要なことだと考えています。夜間十分な睡眠がとれず翌日の活動に影響することを避け、また転倒などによる事故に繋がらないように見守り、付き添い支援する等、何年経験しても常に緊張感を感じる業務です。

6月初旬、3年目のB支援員(以下Bさん)が、自らAさんの就寝時の支援をさせてほしい

とAさんの担当支援員C副主任(以下Cさん)に伝えてきました。利用者Aさんは、就寝時(就寝前の排泄から、布団への誘導、布団に入ってからの入眠まで)の支援に配慮が必要な方です。その為、普段は軸となる男性支援員が就寝の支援を行いスムーズな入眠に繋がられるよう支援しています。それでも、就寝から入眠まで時間を要したり、時には布団から起き出し、中々入眠できないこともあり、特に就寝時の支援には気を配っています。(本来は日中の活動を充実させ、夕方以降は就寝に向けて、穏やかに過ごせるよう支援し、夜間はぐっすり眠れるような線の支援が出来ているべきなのですが…)

Cさんは、自らがAさんの就寝支援の際に気を配っていることを細かくBさんに伝え、いざ就寝時間。Bさんは、初めてAさんの就寝支援をしながら色々と考え、Cさんは言葉で伝えるだけで終わらず、Bさんの支援に付き添いながら、上手く支援出来ている所は評価し、自分だったらこうするかとアドバイス

しながらAさんの就寝支援を見守っていました。私もそのやり取りを見守りながら、Cさんから引き継ぎ、何とかBさんの支援で入眠に繋がれるようにサポートし、1時間程のやり取りの中で入眠されました。Aさんが入眠された後のBさんのホッとした表情がとても印象的でした。同じ日、女性利用者の方を軸となり支援したD支援員(以下Dさん)。彼女も3年目。「口ナ禍で急遽勤務が変更になり、軸としてのデビューの日となりました。勤務に入る時点で話をすると「ドキドキしています」と不安を口にしていました。しかし、朝までしっかり女性の利用者の方々への支援に徹することが出来ていました。

利用者の方々朝食、掃除まで支援し日中の支援員に引き継ぎを終え、勤務終了。

本来なら、二人を労う為にお酒でも言いたいところでしたが、BさんDさんと反省会と称してジュースで乾杯。2人の表情からは、夜間勤務の緊張と責任感からの解放、事故や怪我なく利用者の方々を支援出来たこと

への安堵を感じる事が出来ました。

そしてBさんは、Aさんの入眠まで支援ができたこと、Dさんは、女性利用者の夜間支援を軸となり終えたことの達成感を感じていたのでしょうか、それが色々と考えながら支援したことや支援しながら考えたこと、その時のドキドキ感等を、目をキラキラと輝かせながら話してくれました。また、Cさんは、BさんがAさんの入眠まで支援して、朝までAさんが眠れたことを伝えると、自分のことのように喜んでくれました。そんな3人の支援員の姿に、自らの殻を破って成長していく逞しさを感じると同時に、まだまだ“負けられん”と思いを新たにさせられた、清々しい朝でした。



8月スケジュール

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 5日(金) 芸術クラブ | 30日(火) 3班レクレーション |
| 13日(土) 一斉清掃 | 31日(水) 4班・5班レクレーション |
| 17日(水) 誕生会 | |
| わっふるステップアップ講座 | 毎週月曜日訪問理容サービス |
| 19日(金) eスポーツ・アンパの日 | 毎週木曜日ローソン移動販売 |
| 20日(土) 陣内食堂 | |
| 27日(土) イベント食 | BE TREE |
| 30日(火) 3班レクレーション | <営業時間>8:00~18:00 |

9月スケジュール

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1日(木) さんきマーケット | 28日(水) 1班レクレーション |
| 2日(金) アンパ創作活動 | 30日(金) BeTREE勉強会 |
| 7日(水) わっふるステップアップ講座 | |
| 9日(金) 芸術クラブ | 毎週月曜日訪問理容サービス |
| 10日(土) 帰宅 | 毎週木曜日ローソン移動販売 |
| 15日(木) 嘱託医来診 | |
| 16日(金) アンパの日 | BE TREE |
| 24日(土) イベント食 | <営業時間>8:00~18:00 |



betree314

8月

沢山のご厚意

ありがとうございます

9月

濱田明子様 白井桂子様
亀崎和子様 本田祥大朗様

ブラッシング 前淵隆子様

【寄付】

三気の里家族会様

藤井法仁様 藤岡祐機様

米村秋江様 林原あさ様

【物品】

植原圭子様 金森保様

森川琇介様 魚谷郁子様

玉川紀子様 前田克英様

柴田博子様 吉田和信様

魚谷秀文様 清田栄一様

櫻木勇夫様 中村秀隆様

松村俊介様 宮本眞一様

坂梨清美様 山田美貴子様

渡邊正司様 東坂富士代様

田中満子様 井手上昌子様

田之上あかね様

八代学園古田浩二様

【後援会ありがとうございます】

春野宗敏様 角田幸様

満塩武臣様 角田ちあき様

牛島智子様 佐藤由美子様

【後援会ありがとうございます】

中村秀隆様 岡本史郎様

森木美樹様 林千紗子様

【物品】

小牧博則様 金森保様

高村茂子様 角田幸様

坂梨清美様 田中哲夫様

甲斐賢二様 亀崎幸久様

赤星央子様 柴田博子様

上野育夫様 渡邊正司様

森川琇介様 井上ちえ子様

魚谷秀文様 西村真由美様

清田栄一様 東坂富士代様

松村俊介様 岩切美佐子様

櫻木勇夫様 井手上昌子様

宮本眞一様 井手上恭子様

田中満子様